

対馬市消防出初式



防火・防災の決意新たに

消防団員の士気の高揚と団結を誓う対馬市消防出初式が、1月5日、豊玉町仁位の対馬市公会堂で開催され、市内の消防団員510名（厳原90名、美津島45名、豊玉215名、峰35名、上県50名、上対馬75名）をはじめ、消防署員等多くの関係者が出席し、地域の防火・防災の決意を新たにしました。

式典に先立ち、午前10時15分から地元仁位保育所の幼年消防クラブ鼓笛隊を先頭に、豊玉地区消防団員305名と30台の消防車両が対馬交通豊玉営業所から市役所豊玉支所までを分列行進しました。沿道には多くの市民が詰めかけ、地域防災の要である消防団の勇姿と、園児たちのかわいらしい姿を温かく見守っていました。

式典では、松村市長の式辞に続き、消防庁長官、県知事、県消防協会長等から、消防業務に功績のあった団員等への表彰と退職団員への感謝状の授与が行われ、来賓による祝

辞が披露された後、永留市喜対馬市消防団長が「本日の出初式を契機に、有事の際は対馬市消防団98個分団が一致団結のもと、消防力を十二分に発揮することを切望する」と訓辞しました。その後、場所を仁位浜岸壁に移し、豊玉地区消防団による一斉放水が実施されました。

また、他の各町でも地元地区消防団員による市中行進、一斉放水などが実施されました。

昨年の対馬における火災発生件数は29件で前年より15件減少し、また救急搬送人員は1281名で前年より91名減少しました。

写真（右上から時計回りに）

整然と行進する豊玉地区消防団 行進を先導した仁位保育所幼年消防クラブ鼓笛隊 行進を観閲 喜ぶ子どもたち 訓辞する永留市喜対馬市消防団長 厳粛に行われた式典

市長の動き

《1月》
4日〓 仕事始め式



- 5日〓 消防出初式
- 7日〓 対馬市成人式
- 9日〓 厳原町漁協青壮年部学習会
- 10日〓 阿須湾漁協恵比寿神社祭、高浜漁協十日恵比寿祈願祭
- 13日〓 対馬北部沖海洋調査・利活用方策報告会
- 14日〓 グラウンドゴルフ県年輪ピック予選大会
- 18〓 19日〓 県後期高齢者医療広域連合委員会（長崎）
- 20〓 21日〓 福岡対馬会総会・新春祝賀会（福岡）
- 22〓 23日〓 鳥栖市長訪問（鳥栖）、長崎対馬会総会・新年懇親会（長崎）
- 24〓 25日〓 県漁港漁場協合理事会（長崎）
- 26日〓 定例記者発表
- 29日〓 県立及び離島医療圏組合病院あり方検討会
- 30日〓 国民保護協議会

「海洋温度差発電」で新たな産業・雇用の創出が可能

対馬北部沖海洋調査・利活用方策報告会

上県町棹崎沖が適地

水産大学の岡田教授の報告では、2005年8月に行った調査で、上県町棹崎沖約10kmの地点が表層水と深層水の温度差が約25度あり、海洋温度差発電を運転する条件に適しており、また、同地点では比較的水深が浅いところ(約200m)から低温の深層水を採用できるため他の海域に比べ好条件で、加えて水質もミネラル分を多く含んでいることが示され、今後も継続して海洋調査と施設建設のための検討が必要と付け加えました。

かないため無機栄養素を豊富に含み、海面に放流すれば豊かな漁場を造成できるという特徴も持っています。

対馬の持つ資源で

地域振興を

この調査結果を受けて同発電の世界的権威で対馬出身の上原理事長は、対馬の持つ独自の資源(海洋資源、風光明媚な景色、海岸線の長さ、温和で優れた頭脳を持つ人材)を活かせば対馬の振興は有望と説明。

無限で環境に優しく、漁場造成も可能

海洋温度差発電とは、海面と深海の水温の差を利用した発電方法で、資源の枯渇の心配が無く環境に優しくと世界から注目を集めています。

また、発電の際に利用する海洋深層水は、太陽の光が届



説明を行う上原春男理事長

対馬市が2005年に対馬北部沖で実施した海洋温度差発電の可能性に関する調査報告会が1月13日、対馬市交流センターで開催されました。

報告会にはNPO法人海洋温度差発電推進機構の上原春男理事長をはじめ4名の専門家が出席。会場に集まった約200名の市民に調査結果と海洋資源を利用した地域振興策について説明しました。

中島美香さん(応急手当普及員)が

対馬市消防団に入団

「消防団員に救命講習の普及を」



制服姿の中島さん



出初式での様子

応急手当普及員として活躍中の中島美香さん(美津島町鴨居瀬)が、昨年の11月1日付で対馬市消防団(本部付)に入団。厳原第6分団の主藤由美さんに続き、対馬で2人目の女性消防団員が誕生しました。

中島さんは、昨年3月に応急手当普及員の資格を取得して以来、消防署が各地で実施している救命講習にボランティアで参加し、普及活動に協力しています。活動を続けるにつれ有名になり、今では声をかけてくれる人も増え、女性のほづが話しやすい」と講習を受けたお母さん方からの

依頼で、個人的に再指導を行うこともあるそうです。団員として初めての活動となった出初式では、式典進行の補助を務めました。「大勢の人の前に出る機会は少ないので、今日は緊張しましたが、あつという間に終わりました」と初仕事をふり返っていました。

今後の活動について中島さんは「事故が起きたとき近くにいて素早く対応できる地元の消防団員が一番の頼み。団員への救命講習の普及を目指し、対馬での救急救命率を上げたい」と抱負を話しました。